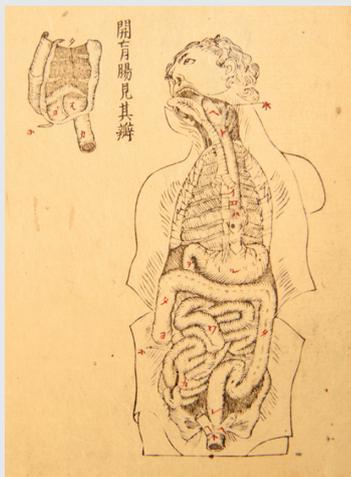


東京医科歯科大学の過去から現在までのトピックス、エピソードをピックアップして紹介します。

解体新書

安永3年(1774年)刊



秋田藩出身の絵師・小田野直武が描いた精密な図版は、高度な木版技術によって印刷された。口から消化器、肛門まで、消化管を描いた図。各臓器を描いた図ばかりでなく、全身の経路を見せる工夫がされている。



巻之一は解体(解剖)の方法、心構え、人体の各器官の名称、巻之二は頭部について、巻之三は胸部と腹部(胃腸)について、巻之四は腹部(肝臓、泌尿器)と妊娠のしくみなど。現在はオープンキャンパスなどで公開。数年前までは医学部1年の授業で披露されることもあった。

オランダ語の解剖書『ターヘル・アナトミア』などを底本に、杉田玄白や前野良沢らが翻訳した日本初の医学翻訳書。本文4巻と図1巻の計5巻全てが揃った初版本が東京医科歯科大学図書館に所蔵されている。人体構造は「五臓六腑」からなる、と考えるのが一般的であった時代、『ターヘル・アナトミア』を見ながら腑分け(処刑された罪人の解剖)に立ち会った玄白たちはその正確さに驚き、急いで翻訳や図版作りを進めたという。ところどころに見られる赤い文字の書き込みは、この本で学んだかつての医学生や医師によるもの。いくつもの時代を超えた『解体新書』は、今を生きる医師たちにも刺激を与えることだろう。

当時のこの本を手にした名もなき医師による書き込みも大変貴重な記録となっている。

